

大綱主要項目		事務事業の効率化				
具体的な項目		事務事業の見直し				
実施計画項目		行政評価システムの推進				
担当課		総合政策課		関係課	全課	
No.Ⅲ-1-(1)		令和3	4	5	6	7
実施年度	実施計画	○	○	○	○	○
	効果又は 数値目標	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 85% 【令和3年度修正】	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 88% 【令和3年度修正】	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 92% 【令和3年度修正】	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 96% 【令和3年度修正】	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 100% 【令和3年度修正】
進捗状況	実績	A	B	B		
	効果又は 数値実績	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 82%	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 77%	行政評価システムを職務に活かしている職員（係長以上）の割合 89%		
現状と課題						
【現状】事務事業評価、施策評価を行い、全施策の進捗状況を把握するとともに、評価結果に基づき、事務事業等の改革・改善を推進している。また、政策評価会議により、次年度の重点・優先施策や行財政運営の方向性を示す「行政経営方針」を策定し、予算等へ反映している。評価結果については、ホームページで公表している。 【課題】令和3年度で導入から19年が経過し、目的意識の低下、評価事務のマンネリ化で、本来の目的である、成果を重視した行政運営の実現が図られていない。						
課題解決に向けた方策						
行政評価システムの見直しを行い、課題の把握、改革改善を重視した事務事業評価、施策評価を実施していく。また、行政評価システムの推進について、行政評価基本方針の趣旨及び内容を職員に周知徹底し、職員の意識改革を図っていく。						
具体的な取組内容						
【令和5年度】 令和2年度中に見直しを行ったシステムに基づき、行政評価を実施した。（見直し後3年目）						
実績考察（理由、改善すべき点等）						
【令和5年度】 目的意識の低下や評価事務のマンネリ化により、職員に行政評価の意義が十分に認識されていないことが要因と思われる。また、システムの利用しづらさの指摘もあり、行政評価基本方針の趣旨及び内容を職員に周知徹底するとともにシステム更新に向けた研究を進める必要がある。						
考察を踏まえての今後の取組方針						
【令和6年度以降】 引き続き、実施計画査定時に事務事業評価結果を活用することで行政評価の趣旨及び内容を職員に認識させるとともに、限られた行政資源の効率的な配分を意識しながら、総合計画に基づく事業の着実な推進に努める。 また、令和5年度に実施した行政評価等に関する県内12市へアンケートを参考に、次期総合計画である「真岡市総合計画2025-2029（仮称）」に基づく評価実施に向け、評価シートや評価方法の変更を行う。						